

## 基礎看護実習 I の実習前後における看護師イメージ変化の比較検討

瀧野由夏\*, 加藤法子\*, 中野榮子\*, 永嶋由理子\*, 津田智子\*, 山名栄子\*

### A Comparative Study of Changes in the Image of Nurses Before and After Practice with *Fundamental Nursing Practice I*

Yuka FUCHINO, Noriko KATO, Eiko NAKANO, Yuriko NAGASHIMA,  
Tomoko TSUDA and Eiko YAMANA

#### 要 旨

本研究では福岡県立大学看護学部1年生を対象に看護師イメージの変化という側面から基礎看護実習 I の教育効果を明らかにすることを目的として検討を行った。

はじめに、学生の看護師イメージの内部構造を明らかにするために因子分析を行った結果、「内面性」「職業観」「外観」「専門性」「労働特性」の5因子が抽出された。この5因子それぞれについて因子別得点を算出し、実習前、実習後で平均値を比較したところ、「内面性」「職業観」「外観」「専門性」で実習後の得点が有意に上昇していた。得点が上昇するということは学生が看護師イメージをより具体的にできるような変化をもたらしたことを示すものであることから、看護師イメージを具体的にできる基礎看護実習 I の教育上の意味は大きいと考えられる。

また、看護師イメージの項目別得点について、実習前、実習後で平均値を比較したところ、27項目中2項目を除き実習後の得点が上昇し、そのうち、18項目は有意に上昇していた。因子別得点においても4因子で実習後の得点が有意に上昇していたことから、基礎看護実習 I は看護師イメージをポジティブに変化させられる実習であることが明らかになった。ポジティブな看護師イメージをもつことは学生が主体的に学ぶ動機づけを高めることにつながることから、基礎看護実習 I は学生が看護を主体的に学習する動機づけを高める効果が期待できる実習であることが明らかになった。

キーワード: 基礎看護実習, 看護学生, 看護師, イメージ, 教育効果

#### 緒 言

看護の道にすすむことを決意して入学したばかりの看護学生も看護についておそらく一般の人々と同様なイメージをもっているだろうと松木 (2003) が指摘しているように、看護の初学者である学生は、看護とは何かや看護の目的・方法など、看護について具体的な知識がなく、そのイメージも抽象的な捉え方をしていると推察される。そして、本学看護学部1年次の学生も入学後、いくつかの専門科目を受

講しているものの、教養科目を中心として学習を進めている状況にあり、具体的な看護のイメージをもっているとは言いがたい状態にある。

しかしながら、看護を抽象的に捉えたまま専門知識の学習を進めても、学生は看護に対する実体験が乏しいために、理解を促しにくいという側面も見受けられる。そのため、本学看護学部では早期実習を導入することにより、看護が実践されている臨床場面に早期に触れさせ、その実体験で得たイメージを

\* 福岡県立大学看護学部基礎看護学講座  
Department of Fundamental Nursing, Faculty of Nursing,  
Fukuoka Prefectural University  
連絡先: 〒825-8585 福岡県田川市大字伊田4395番地  
福岡県立大学看護学部基礎看護学講座 瀧野由夏  
E-mail: fuchino@fukuoka-pu.ac.jp

後の講義や演習に結びつけられるような教育体制をとっている。本学の基礎看護学講座においても平成15年度より早期実習を取り入れ、入学後、間もない1年次前期の5月下旬に早期実習の一環として基礎看護実習 I (以下、「基礎 I 実習」という)を実施している。そして、学生は看護が実践されている様々な臨床場面を見学することで、看護師の役割や患者の特性の理解が深められるなど一定の教育効果がみられている(加藤, 佐藤, 高橋, 永嶋, 中野, 2003)。

しかし、上述のような教育効果を明らかにすることはできたが、基礎 I 実習において実際に臨床場面を見学したことから、どのように看護のイメージを得ることができたかについては明らかにできていない。そこで本研究では、看護の表象として捉えやすい看護師イメージを指標として、実習前後で学生のイメージの変化を比較することにより、看護師イメージの変化という側面から基礎 I 実習の教育効果を明らかにすることを目的として検討を行った。

## 方 法

### 1. 基礎看護実習 I の概要 (表1)

基礎 I 実習の概要は表1に示すとおりである。

### 2. 調査期間

平成19年5月28日～6月1日

### 3. 調査対象者

福岡県立大学看護学部1年生81名

### 4. 調査方法

実習初日のオリエンテーション終了後、調査対象者全員に対し、調査票 (実習前用)、同意書、研究の目的・主旨・倫理的配慮等を記載した文書を一齐配布し研究協力を依頼した。その後、研究協力の同意の得られた者には、実習前用の調査票に回答してもらった。実習後の調査は、実習最終日の発表会終了後、実習後用の調査票を配布し、回答してもらった。

調査票は記名式の自記式調査票で、このうち今回の解析に用いた基本属性は、年齢、性別であった。また、看護師イメージの測定には真鍋, 野尻, 中野, 桂, 酒井 (1994) が作成した質問項目を用いた。これは看護師のイメージを測定するための27項目の形容詞対からなり、7段階評定を行うSD尺度である。

倫理的配慮として、本研究に協力するかどうかは任意であり強制ではないこと、本研究と実習の成績とは全く関係ないこと、研究協力すると決めても対象者の自由意志でいつでも研究協力をやめることが

できること、調査票は記名式であるが、研究結果の公表は個人が特定できるような情報は全て排除して公表すること、情報がどのような形によっても漏洩することがないように情報管理には厳重な注意を払うことなどを記載した文書を配布し、さらに口頭でも説明を行った。そして、同意の得られた者には同意書に署名をしてもらったうえで調査票の回答を依頼した。

## 5. 解析方法

看護師イメージは各形容詞対について、図1の左側の形容詞をポジティブなイメージ、右側の形容詞をネガティブなイメージとし、左側の形容詞に7点、右側の形容詞に1点を与え、7～1点の範囲で得点化した。

解析は、はじめに学生の実習前の看護師イメージの内部構造を明らかにするために27形容詞対について因子分析 (主因子法, バリマックス回転) を行った。その結果に基づいて因子別得点を算出し、実習前、実習後の因子別得点の平均値をウィルコクソンの符号付順位検定により比較した。次に、27対それぞれの形容詞の項目別得点の平均値についてもウィルコクソンの符号付順位検定により実習前、実習後で比較した。また、看護師イメージの測定尺度の信頼性はクロンバック  $\alpha$  係数による内的整合性の検討にて行った。なお、解析にはSPSS ver.15.0J for Windowsを用いた。

## 結 果

### 1. 解析対象者について

研究協力の同意が得られ、実習前の調査票に回答した者は72名 (回収率88.9%) であった。このうち、実習後の調査票に回答した者は70名であったことから、本研究では、実習前、実習後の2回分の調査票の回答が得られたこの70名を解析対象者とした (有効回答率86.4%)。

解析対象者の基本属性についてみると、女性63名、男性7名と大部分が女性で、年齢は9割以上が19歳以下であった。

なお、解析対象者の基礎 I 実習の出席状況について、全員、学外における実習の欠席はなかった。

### 2. 看護師イメージの因子分析結果

学生の看護師イメージの内部構造を明らかにするために因子分析 (主因子法, バリマックス回転) を行った結果、表2に示すように5因子 (累積寄与率

表 1

基礎看護実習 I の概要

1. 実習目的

介護老人保健施設や医療施設を利用する人々に対し、医療福祉チームはどのように連携をしながら対象者のニーズに対応しているかを知る。その中で看護はどのような役割を果たしているかを知り、看護を学ぶ者としての自覚と主体的な学習の動機づけとする。

2. 実習目標

1) 介護老人保健施設

- (1)介護老人保健施設に入所あるいは通所している高齢者は、どのような援助を受けながら生活しているかを知る。
- (2)利用者の生活を安全・安楽に支えるために、介護老人保健施設はどのように施設・整備を整え、運営しているかを知る。
- (3)利用者の生活支援をしている看護や介護の職員の活動および連携のあり方を知る。

2) 医療施設

- (1)医療施設は受診者のニーズに応えるためにどのようなシステムで医療を提供しているかを知る。
- (2)医療チームの連携の実態と其中で看護はどのような役割を担っているかを知る。
- (3)入院している患者の病棟・病室での生活の様子を把握し、どのような看護を受けているかを知る。

3. 実習方法

- 1) 実習時期：1 年次前期
- 2) 実習期間：1 週間（5 日間）
- 3) 実習計画：

|        |    |  |
|--------|----|--|
| 第 1 日目 | 午前 | 全体オリエンテーション<br>学外実習(第 2 日目)施設別オリエンテーション      |
|        | 午後 | 事前学習(学内実習)                                   |
| 第 2 日目 | 午前 | 学外実習   |
|        | 午後 | 自己学習(学内実習)                                   |
| 第 3 日目 | 午前 | 学外実習(第 2 日目)のまとめ<br>学外実習(第 4 日目)施設別オリエンテーション |
|        | 午後 | 事前学習(学内実習)                                   |
| 第 4 日目 | 午前 | 学外実習   |
|        | 午後 | 自己学習(学内実習)                                   |
| 第 5 日目 | 午前 | 学外実習(第 4 日目)のまとめ<br>全体発表会の準備                 |
|        | 午後 | 全体発表会  |

49.30%) が抽出された。

第 I 因子は「礼儀正しい－行儀悪い」, 「明るい－暗い」, 「温かい－冷たい」など 9 項目からなり、看護師としての本質的な内的要素に関する項目の負荷量が高いことから「内面性」と命名した。第 II 因子は「面白い－つまらない」, 「安定した－不安定」, 「価値のある－無益な」など 6 項目からなり、看護師とい

う職業に対する観念に関する項目の負荷量が高いことから「職業観」と命名した。第 III 因子は「美しい－汚い」, 「スマートな－やぼったい」, 「豊かな－貧しい」など 5 項目からなり、外面に表面化された看護師の様子に関する項目の負荷量が高いことから「外観」と命名した。第 IV 因子は「理性的－感情的」, 「科学的－非科学的」, 「知的な－知的でない」など 5 項目

からなり、看護師の具有している専門的側面に関する項目の負荷量が高かったことから「専門性」と命名した。第V因子は「軽労働-重労働」、「重要な-重要でない」という就労に関する項目の負荷量が高かったことから「労働特性」と命名した。

### 3. 実習前・実習後の因子別得点の変化

因子分析で抽出された5因子それぞれについて、因子別得点を算出し、実習前、実習後の因子別得点の平均値を比較した結果を表3に示す。

5因子のうち、「労働特性」以外の4因子で実習後の得点が有意に上昇していた。

有意に変化していた因子の得点変化の状況については、「内面性」実習前 $54.0 \pm 5.7$ 、実習後 $56.2 \pm 5.0$ (以下、同)、「職業観」 $34.4 \pm 4.1$ 、 $35.4 \pm 4.3$ 、「外観」 $23.6 \pm 3.7$ 、 $25.2 \pm 4.2$ 、「専門性」 $27.1 \pm 3.4$ 、 $30.0 \pm 3.0$ であり、

特に、「内面性」、「外観」、「専門性」の得点上昇が大きくなっていた。

### 4. 実習前・実習後の看護師イメージ項目別得点の変化

実習前の項目別得点の平均値をみると、6項目を除き全て5点以上でありポジティブなイメージ寄りであった。また、27対それぞれの形容詞の項目別得点の平均値を比較した結果、「安定した-不安定」、「軽労働-重労働」以外の全項目において実習前より実習後の方が得点は上昇しており、ポジティブなイメージへ変化していた。そして、27項目中18項目で有意な変化がみられた(図1)。

有意に変化していた項目の得点変化の状況については、「礼儀正しい-行儀悪い」実習前5.63、実習後5.99(以下、同)、「明るい-暗い」6.10、6.44、「温かい

表2

看護師イメージの因子分析結果

| 因子/項目            | 因子負荷量  |        |        |        |        |
|------------------|--------|--------|--------|--------|--------|
|                  | I      | II     | III    | IV     | V      |
| <b>第I因子 内面性</b>  |        |        |        |        |        |
| 礼儀正しい            | 0.765  | -0.130 | 0.226  | 0.348  | 0.077  |
| 行儀悪い             |        |        |        |        |        |
| 明るい              | 0.656  | 0.220  | 0.040  | 0.184  | 0.068  |
| 暗い               |        |        |        |        |        |
| 温かい              | 0.647  | 0.023  | 0.115  | 0.100  | 0.193  |
| 冷たい              |        |        |        |        |        |
| 勤勉な              | 0.620  | 0.226  | 0.109  | 0.352  | -0.051 |
| 怠惰な              |        |        |        |        |        |
| 正直な              | 0.527  | 0.026  | 0.441  | 0.126  | -0.121 |
| ずるい              |        |        |        |        |        |
| 清潔な              | 0.511  | 0.331  | 0.205  | 0.108  | 0.017  |
| 不潔な              |        |        |        |        |        |
| 親切な              | 0.508  | 0.264  | 0.191  | 0.109  | 0.140  |
| 不親切な             |        |        |        |        |        |
| 慎重な              | 0.422  | 0.042  | 0.062  | 0.421  | 0.287  |
| 軽薄な              |        |        |        |        |        |
| 責任感の強い           | 0.358  | 0.242  | 0.049  | 0.316  | 0.269  |
| 無責任な             |        |        |        |        |        |
| <b>第II因子 職業観</b> |        |        |        |        |        |
| 面白い              | 0.338  | 0.647  | 0.155  | -0.094 | -0.232 |
| つまらない            |        |        |        |        |        |
| 安定した             | -0.090 | 0.636  | 0.038  | 0.043  | 0.001  |
| 不安定              |        |        |        |        |        |
| 価値のある            | 0.187  | 0.585  | 0.027  | -0.030 | 0.355  |
| 無益な              |        |        |        |        |        |
| やりがいのある          | 0.169  | 0.580  | 0.155  | 0.087  | 0.254  |
| やりがいのない          |        |        |        |        |        |
| 好きな              | 0.149  | 0.572  | 0.053  | 0.379  | -0.047 |
| 嫌いな              |        |        |        |        |        |
| 魅力的              | 0.257  | 0.370  | 0.337  | 0.339  | 0.240  |
| 魅力のない            |        |        |        |        |        |
| <b>第III因子 外観</b> |        |        |        |        |        |
| 美しい              | 0.109  | 0.050  | 0.904  | -0.062 | 0.215  |
| 汚い               |        |        |        |        |        |
| スマートな            | 0.112  | 0.085  | 0.729  | 0.259  | -0.071 |
| やぼったい            |        |        |        |        |        |
| 豊かな              | 0.372  | 0.374  | 0.481  | -0.165 | -0.200 |
| 貧しい              |        |        |        |        |        |
| 自由な              | 0.196  | 0.280  | 0.463  | 0.157  | -0.331 |
| きゅうくつな           |        |        |        |        |        |
| 高尚な              | 0.371  | 0.101  | 0.440  | 0.299  | -0.084 |
| 低俗な              |        |        |        |        |        |
| <b>第IV因子 専門性</b> |        |        |        |        |        |
| 理性的              | 0.187  | 0.012  | -0.001 | 0.734  | 0.100  |
| 感情的              |        |        |        |        |        |
| 科学的              | 0.075  | -0.031 | 0.090  | 0.551  | -0.075 |
| 非科学的             |        |        |        |        |        |
| 知的な              | 0.288  | 0.311  | 0.316  | 0.445  | 0.008  |
| 知的でない            |        |        |        |        |        |
| 機敏な              | 0.243  | 0.131  | 0.073  | 0.437  | 0.232  |
| 鈍感な              |        |        |        |        |        |
| 進歩的              | 0.257  | 0.320  | 0.243  | 0.402  | -0.271 |
| 保守的              |        |        |        |        |        |
| <b>第V因子 労働特性</b> |        |        |        |        |        |
| 軽労働              | -0.050 | -0.013 | 0.062  | -0.021 | -0.494 |
| 重労働              |        |        |        |        |        |
| 重要な              | 0.369  | 0.244  | 0.085  | 0.130  | 0.462  |
| 重要でない            |        |        |        |        |        |
| 固有値              | 3.92   | 2.84   | 2.70   | 2.50   | 1.35   |
| 寄与率              | 14.53  | 10.51  | 9.99   | 9.27   | 5.01   |
| 累積寄与率            | 14.53  | 25.04  | 35.02  | 44.29  | 49.30  |

表 3

実習前・実習後の因子別得点の変化

| 因 子         | 実 習 前<br>(平均値 ± SD) | 実 習 後<br>(平均値 ± SD) |      |
|-------------|---------------------|---------------------|------|
| 第 I 因子 内面性  | 54.0 ± 5.7          | 56.2 ± 5.0          | ***  |
| 第 II 因子 職業観 | 34.4 ± 4.1          | 35.4 ± 4.3          | *    |
| 第 III 因子 外観 | 23.6 ± 3.7          | 25.2 ± 4.2          | ***  |
| 第 IV 因子 専門性 | 27.1 ± 3.4          | 30.0 ± 3.0          | ***  |
| 第 V 因子 労働特性 | 8.5 ± 1.1           | 8.6 ± 1.1           | n.s. |

\*p<0.05      \*\*\*p<0.001

「冷たい」5.90, 6.17, 「勤勉な－怠惰な」5.96, 6.20, 「正直な－ずるい」5.23, 5.54, 「親切な－不親切」6.23, 6.43, 「慎重な－軽薄な」6.00, 6.27, 「責任感の強い－無責任な」6.53, 6.71, 「面白い－つまらない」4.90, 5.34, 「魅力的－魅力のない」5.47, 5.83, 「美しい－汚い」4.80, 5.07, 「スマートな－やぼったい」4.77, 5.31, 「豊かな－貧しい」5.10, 5.56, 「自由な－きゅうくつな」3.74, 4.06, 「科学的－非科学的」4.80, 5.21, 「知的な－知的でない」5.76, 6.10, 「機敏な－鈍感な」6.17, 6.51, 「進歩的－保守的」5.20, 5.68であった。

### 5. 看護師イメージの測定尺度の信頼性

看護師イメージの測定尺度のクロンバック α 係数は0.895であった。

### 考 察

本研究では、看護師イメージの変化という側面から基礎 I 実習の教育効果について明らかにすることを目的として、実習前後における看護師イメージを比較した。看護師イメージの内部構造を明らかにするために因子分析を行った結果、5因子が抽出され、その因子の得点を実習前後で比較したところ、4因子で実習後の得点が有意に上昇するという変化がみられた。さらに、看護師イメージ項目別得点の変化においても、実習後はほとんどの項目で得点の上昇がみられたことから、全体的にポジティブなイメージに変化していることが明らかになった。

看護師イメージの因子分析により抽出された因子の因子別得点について実習前後での変化をみたところ、「労働特性」以外で実習後の因子別得点が有意に上昇するという変化がみられた。そこで、各因子得点が上昇した要因について、臨床場面で実践されて

いる看護の観点から考察を行う。

はじめに「内面性」についてみると、実習後で得点の上昇がみられた。本学の基礎 I 実習の学習内容を分析した研究(加藤ほか, 2003)において学生は、患者への細やかな気配り、コミュニケーションやさりげないスキンシップ、声かけなど看護師と患者の関わりに関する場面を最も多く見学し、学びへと結びつけていたと報告した。本研究結果では「内面性」の得点上昇がみられているが、これは学生が上述に示したような、看護師が患者や入所者等と接する場面や援助する場面等を見学することを通して、実習施設の看護師がモデルとなり、モデルである看護師から礼儀正しい姿勢や明るく温かい態度など、看護師として必要な本質的な内的要素について感じ取ることができたためと考えられる。

「外観」も得点上昇していたが、これは現前している看護師の容貌、立ち振る舞いなど外面に表面化された看護師の姿が外部刺激として知覚され、そのことが美しさやスマートさ等、「外観」の得点上昇をもたらしたと考えられる。また、石綿(2005)は、見学実習で学生が看護師を見ることで、信頼されるような身だしなみ・言葉遣いを意識する必要性を感じたことを報告している。基礎 I 実習においても「外観」の得点が上昇していたが、これは看護師の姿を外部刺激として知覚したことに加え、「外観」が患者との関係を構築するために必要な要素であることを実習施設の看護師を通じて間接的に自覚した結果、「外観」の得点上昇をもたらす一因となつたのではないかと推察される。

次に「専門性」についてみると、この得点も上昇がみられた。前出の基礎 I 実習の学習内容を分析した

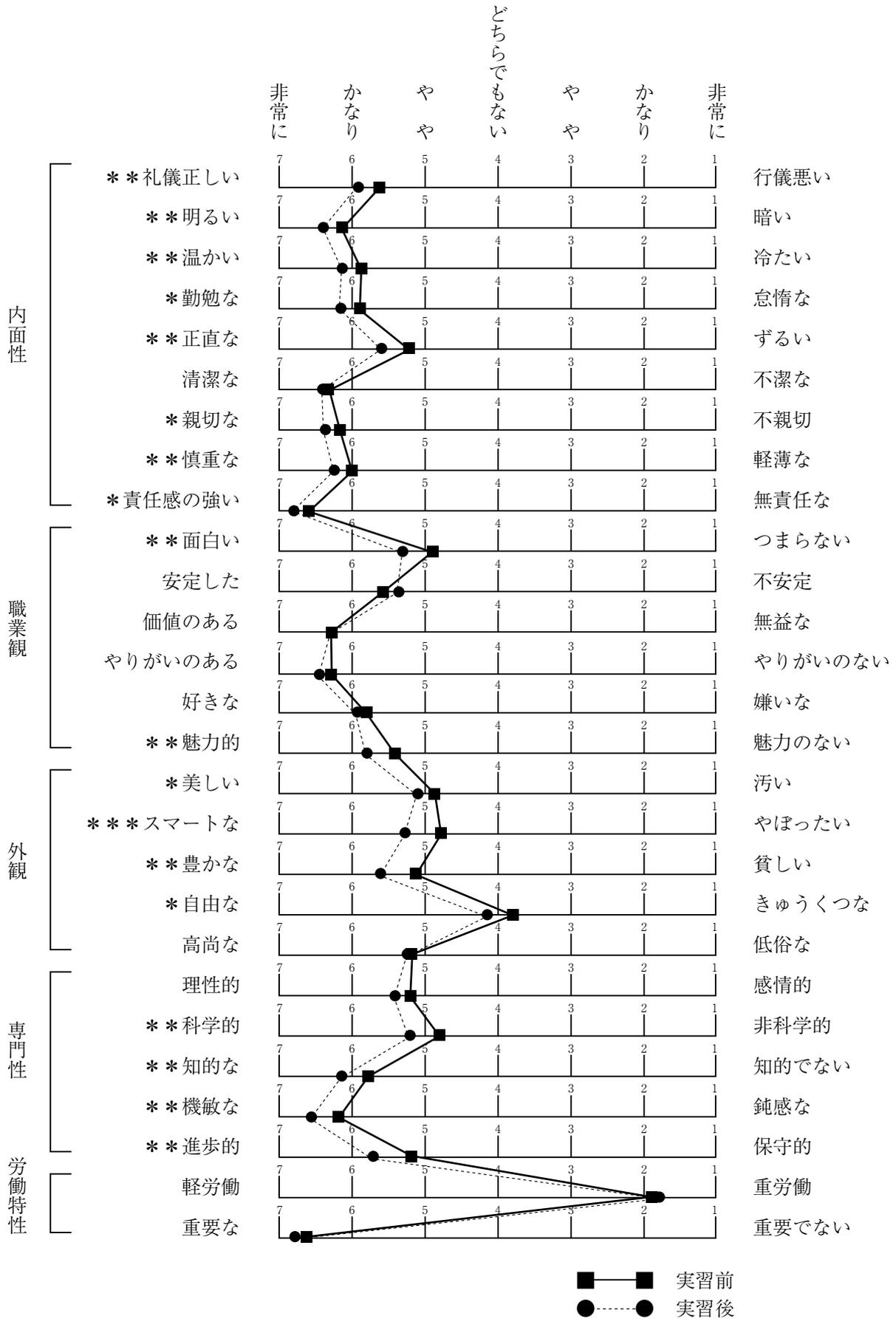


図1 実習前・実習後の看護師イメージ項目別得点の変化

\* p<0.05    \*\* p<0.01    \*\*\* p<0.001

研究(加藤ほか, 2003)では, 患者に納得のいくような説明をしている場面や患者と話しながら患者の変化に気づく観察力を持っている場面等を見学し, 看護が責任ある仕事であることを理解していたことを報告した。本研究結果においても「専門性」の得点上昇が大きかったが, これは, 学生が上述のような場面等から看護師が専門的な知識を有し, 専門技術を駆使しながら看護を実践している場面を見学することで, 看護師の知性や看護の科学性などを見出すことへとつながったと推察され, その結果, 看護師が「専門性」を有していることを認識できた結果と考えられる。

ところで, 「職業観」についても他の3因子に比べ得点変化は小さかったものの有意な得点上昇がみられている。これまで述べたように学生は看護師として必要な内面的な要素に気づき, 外観も看護師にとっては重要な意義をもつこと, また, 看護師が専門性を有することを認識できていた。「職業観」の得点が若干ではあるが上昇しているが, これは学生が上述のことを実習を通じて学んだことが看護師という職業の意識化につながり, その結果「職業観」の変化へ影響を及ぼしたものと考えられる。

このように看護師イメージの構成因子のうち, 実習後は「内面性」, 「外観」, 「専門性」, 「職業観」因子の得点が上昇するという変化がみられた。得点が上昇するということは学生が看護師のイメージをより具体的にできるような変化をもたらしたことを示すものである。したがって, 看護の専門知識を学びはじめたばかりの学生であっても, 臨床場面で実践されている看護を見ることにより看護師イメージを具体的にできることが明らかになったことから, 早期に臨床場面に触れることのできる基礎 I 実習の教育上の意味は大きいと言える。

次に看護師イメージの変化が教育効果へ及ぼす影響について考察を行う。

真鍋ほか(1994)は, 看護師イメージの学年別比較において, 看護大学生では1年生よりも4年生の方が好イメージ寄りであるが, 看護短大生は1年生よりも3年生の方がマイナスイメージ寄りであったとし, その差はカリキュラムの違いが影響していると述べている。さらに, 吾郷, 高橋(1998)は, 本研究と同様に真鍋ほか(1994)の看護師イメージ項目を用いて同一対象を継続的に調査しイメージの変化を検討しているが, 看護短大生, 2校の看護専門学生

の3者間では学年進行とイメージの変化にはそれぞれ違いがみられ, その要因として教育するものの考え方や関わり具合の違いによると述べている。これらの研究から鑑みると看護教育が看護師イメージを変化させる一因と考えることができる。また, 看護教育の中で臨地実習は実践教育として教育の中心におかれている(金子, 石井, 1999)ことから, 実習は看護師イメージ変化へ影響を及ぼす要因となり得ると考えられる。そこで本研究で基礎 I 実習前後の看護師イメージの変化をみた結果, 因子別得点では4因子で実習後の得点が有意に上昇し, また, 項目別にみても18項目で有意な上昇がみられ, 全体的にポジティブなイメージに変化していることが明らかになった。このことから, 基礎 I 実習は看護師イメージ変化に影響を及ぼす要因となることが明らかになり, その変化もポジティブな方向へと変化させることができる実習であることが明らかになった。さらに, 桜井, 山口(1999), 塩川ほか(2002), 石綿(2005)は実習は看護を学ぶ動機づけになると述べており, 加えて, 出口, 宮川, 梶山(1996)は早期に実施した見学実習の学生レポート分析の結果から学生は看護婦に対しプラスのイメージを持ち, 看護を主体的に学ぶ動機づけになったことを報告している。基礎 I 実習は上述のとおり看護師イメージをポジティブに変化させられる実習であり, これは出口ほか(1996)と同様の結果であったことから, 看護師イメージをポジティブに変化させることのできる基礎 I 実習は, 学生が看護を主体的に学習するという動機づけを高める教育効果が期待できる実習であると評価できる。

ところで本研究では, 学生の看護師イメージは実習前よりポジティブイメージ寄りであり, 対象学生は元来から看護師に対して肯定的で理想的なイメージをもっていたことが伺える。そして, 実習後はほとんどの項目で得点上昇を示していた。このことから学生は, 自己のイメージと臨床現場の看護師との間にギャップを感じる事が少なかったと推察されるが, 反対に, 学生は理想と現実のギャップを見極めることができなかつたと捉えることもできる。しかし, 看護専門職を目指す学生には, 患者や利用者等にとって望ましい看護師の姿や看護のあり方等についてクリティカルな視点から判断し, 臨床現場が抱える課題や問題を発見できる能力が必要と考える。したがって, 今後は学生のクリティカルな判断

能力を育成できるよう、さらに学内での指導の充実を図っていききたいと考える。

最後に、本研究の問題点について述べる。本研究で用いた看護師イメージの測定尺度について、クロンバック  $\alpha$  係数は0.8以上であったことから内的整合性が確認された。しかし、本研究ではこの看護師イメージの測定尺度のみを用いて検討を行ったため、測定したデータの妥当性の検証を行うことができなかった。

### 結 論

本研究で、看護師イメージの変化という側面から基礎 I 実習の教育効果を明らかにすることを目的に、実習前後における看護師イメージを比較した。その結果、実習後は看護師イメージを具体的にでき、さらにそのイメージをポジティブに変化させることができたことから、学生が看護を主体的に学習する動機づけを高める教育効果が期待できる実習であることが明らかになった。しかし、学生がクリティカルな視点から看護場面を捉えることができないことも明らかになったことから、学内での指導の充実を図っていく必要があると考えられた。したがって、今後も継続して看護師イメージの変化を見ることにより、学生の看護の捉え方や看護の本質を見出していく過程について検討を続けていききたいと考える。

### 謝 辞

本研究にご協力くださった学生の皆様に心より感謝致します。

### 文 献

- 出口禎子, 宮川昌子, 梶山祥子. (1996). 基礎看護学における見学実習の意義: 学習の動機を高める臨床からの学び. *東邦大学医療技術短期大学紀要*, 10, 51-62.
- 吾郷ゆかり, 高橋恵美子. (1998). 看護学生の看護婦イメージの変化: 3年間の追跡調査の分析より. *鳥根県立看護短期大学紀要*, 3, 61-68.
- 石綿啓子. (2005). 基礎看護学実習における学生の学び: 実習効果に焦点を当てて. *高崎健康福祉大学紀要*, 4, 125-139.
- 金子道子, 石井八恵子. (1998). *看護学臨床実習ガイダンス I*. 東京: 医学芸術社.

加藤法子, 佐藤友美, 高橋清美, 永嶋由理子, 中野榮子. (2003). 基礎看護実習 I における実習内容の検討: 実習レポートの分析から. *福岡県立大学看護学部紀要*, 1(1), 71-78.

真鍋淳子, 野尻雅美, 中野正孝, 桂敏樹, 酒井郁子. (1994). 看護学生の看護婦イメージの研究: 大学生と短大生の比較. *看護教育*, 35(6), 427-433.

松本光子. (2003). *看護学概論*. 東京: ニューヴェルヒロカワ.

桜井玲子, 山口真由美. (1999). 看護教育における初期体験学習の経験と意義. *大分看護科学研究*, 1(1), 20-26.

塩川華子, 中島五十鈴, 青井聡美, 土谷美恵, 杉本吉恵, 松永保子, 田村典子. (2002). 臨地実習の学びをより促進させる教員の関わり方: 基礎看護実習 I 終了後のアンケート調査結果から. *広島県立保健福祉大学誌*, 2(1), 53-63.

受付 2007. 9.28

採用 2008. 1.11